

J **apanese text**

2017年 春/夏号 日本語編

旅館

きよら

[The Ryokan Collection]

写真=工藤憲二
文=鈴木博美

p.076

東西の文化や歴史、伝統を深く知り尽くしながら、それらの様子を軽やかに超えた旅館作品で、日本人の余暇や贅沢に大きく変化をもたらした建築家・竹山 聖。目で見て感じる感触までも思慮して選び抜いた、それぞれの素材が巧みに調和する空間には、“きよら”なるものを美しさの礎とする、日本の精神が宿っている。

日本人の美の概念を形づくり、美しさを感じるのに欠かせないものの一つが“きよら”である。平安時代、曇りや汚れがなく澄んだすっきりとした様子を意味する“きよし”から派生して作られた“きよら”は、気品があって、輝くような至極の美に対して用いられた。千年ほどの時を経て、人々の生活や文化に合わせて“きよら”の意味や使い方は少しずつ変化し、現代においては、清々しさのある、濁りがない清浄なものやこと、精神に対して“きよらか”と言う。

そんな日本人の根底に流れる美意識“きよら”を体感できるのが、建築家・竹山 聖さんが設計デザインを手掛けた旅館だ。1989年の完成時、それまで社員旅行などの大人数で訪れ、宴会などを楽しむのを目的にしていた日本人の旅館に対する考え方を一変させ、大切な人と格別なもてなしの中で、パーソナルで静かな時間を味わう旅こそ真の贅沢という認識を広げた「強羅花壇」。1995年～2006年にかけて4期のリノベーションで、これまでにない軽やかで新しい和のかたちを生み出した「べにや無何有」。ホテル形式でありながらもどこか落ち着いた日本的な趣がある2004年完成の「ロテル・デュ・ラク」。いずこの空間にも漂っているのは、都会の喧騒を忘れさせ、日常の穢れを落としてくれるような、洗練された静謐で“きよら”な空気感だ。

「特有の風土や歴史の中で、日本人は簡素なことの美しさ、

深い美しさを見出してきました。そんな何もないことの豊かさや贅沢さを感じてもらえたら」と、竹山さんは話す。一見何もないように感じさせるために、空間を作る素材も細やかに考慮した。「例えば、べにや無何有では、自然界の中では稀有な、直線的にスパッと深く伸びる素材で清浄効果もある竹をフローリングとして沢山使いました。また、壁は多孔質で自然の調湿作用をもつ珪藻土^{けいそうど}ですが、左官屋さんが塗りますから、その場でタッチが決められるんです。塗り壁の色や、すざ藁^{わら}を入れどんな触感にするか、竹をどう敷くか、そういうことも含めてとても工夫しました」。竹山さんは、昔から日本で使われてきた伝統的な素材を、改めて丁寧に調整し重ね合わせ、これまでにない静かで調和した佇まいを実現させた。

さらに竹山さんは、水平に視線が抜けて、自然を極めて近く感じられるということも、和の空間における重要なポイントだという。竹山さんが設計した空間は、滞在する人がおのずと外の景色に視線を向け、自然の美しさに心を寄せるように作られている。柱の間を吹き抜ける心地よい風、夜空を上ってゆく月の動き、湖面がキラキラと輝く様子……ささやかに変化する自然を受け止めているうちに、心は洗われ、きよらかになってゆく。そんな旅館での滞在は、まるで生まれ変わったかのような、この上ないリフレッシュとなるだろう。

(p.077)

左上：竹敷きの広縁から、山庭の樹々を望む特別室「若紫」。すざ藁を入れた珪藻土の壁のテクスチャーが、柔らかに光の陰影をつくる。

上：洋室以外の客室にあるモダンな床の間には、季節の花が生けられている。

左：直立する柱が、陽光の美しさを際立たせる空間。現在はファインダイニング『懐石方林』として、この心地よい場で心づくしの料理を楽しむことができる。

(p.078)

上：庭かデッキが全客室に設けられており、自然を身近に感じながら寛げる。

右上：高さ6メートル、長さ120メートルの柱廊へと続く、エントランス

ロビー。眼前には山の深い緑が広がる。

左：3つの源泉を有し、その内2本は敷地内から湧き出る自家源泉。豊富で良質な温泉が体を癒す。写真提供＝強羅花壇

竹山 聖 (たけやま・せい)

建築家、1954年生まれ。京都大学を卒業後、東京大学大学院に進学。在学中から、設計組織アモルフを創設して活動をはじめ、気鋭の建築家として活躍。代表作に岩国市周東バストラルホール、大阪府立北野高等学校、新宿瑠璃光院白蓮華堂など。京都大学教授、日本建築設計学会会長として後進の育成にも注力している。

(p.079)

上：ラウンジの全面ガラス張りの窓から望むのは、日本最大の面積と貯水量を誇る琵琶湖の絶景。

左奥：木の質感が安らぎを感じさせる客室「ラグジュアリーシアター」。壁面に映像を投影するシステムが備わっている。

左：もとはバーとして設計された、無駄を削ぎ落とした洗練された空間。

べにや無何有

かつて僧侶の修行の場であり癒しの地であったという、加賀・山代温泉薬師山の高台に佇む宿。豊かな山庭の風景がずっと流れ込んでくる開放感あふれる客室の全てに、露天風呂を完備。プライベートな空間でゆっくり温泉を楽しめる。食材の宝庫である加賀や能登の食材を生かして丁寧に作られた、季節感あふれる食事の魅力の一つ。温泉と自然の神秘が凝縮された薬草を使ったオリジナルのスパトリートメントも人気が高い。「ルレ・エ・シャトー」加盟施設。

住所／石川県加賀市山代温泉 55-1-3 部屋数／17 室

強羅花壇

自然豊かな富士箱根伊豆国立公園の中、閑院宮家の別邸であった由緒ある地に立地。2千坪を超える広大な敷地に、庭園を望む和室、露天風呂付き、離れなど、さまざまなタイプの客室がある。プールやフィットネスジム、スパも備えており、思いのままに過ごすことができる。素材の持ち味と旬を大切に、懐石料理の伝統的な「和」のサービスでのおもて

なしは海外からのゲストにも評判が高い。東京都内から電車を使って約2時間のアクセスで、非日常の贅沢を味わうことができる。「ルレ・エ・シャトー」加盟施設。

住所／神奈川県足柄下郡箱根町強羅 1300 部屋数／39 室

ロテル・デュ・ラク

“奥琵琶湖で過ごす私の別邸”というコンセプトの通り、温かみのある居心地の良い雰囲気は漂う、オーベルジュスタイルの小さなラグジュアリーリゾート。1995年に世界一となったソムリエとして知られる田崎真也氏がプロデュースしており、地元の食材を主役に使ったフレンチをベースにした料理とお酒を旨当てに訪れる人も多い。時間とともにさまざまに表情を変える湖の雄大な景色を眺めながら、リラックスした時間を過ごすことができる。

住所／滋賀県長浜市西浅井町大浦 2064 部屋数／15 室